

沖縄発、アジア貿易の可能性 ～成長するアジア市場への進出～

現在、中国をはじめとするアジア諸国は、世界における生産拠点・消費市場として急速な経済成長を遂げている。少子高齢化により国内市場が縮小しつつある日本は、国内経済を維持するためにも、経済成長著しいアジア諸国との貿易を更に強化していく必要がある。

沖縄県は、かつて琉球王朝時代に中継貿易で栄えたように、日本本土とアジア地域の中間に位置しており、物流の拠点として地理的優位性を有している。今後、規模拡大が予想される日本とアジア諸国との貿易を足がかりに、物流拠点としての地位を確立しつつ、県産品のアジア展開を含めた、自立型経済の構築につながる貿易振興の可能性を検討する。

●日本の対アジア貿易の現状

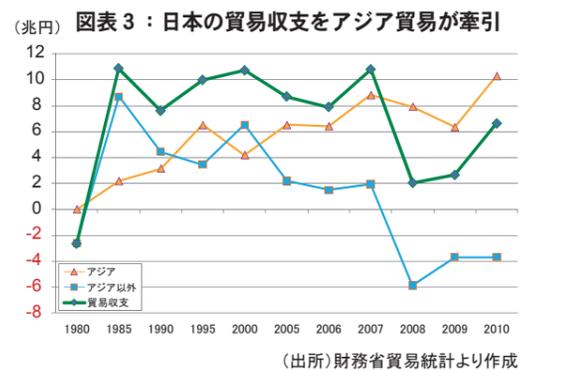
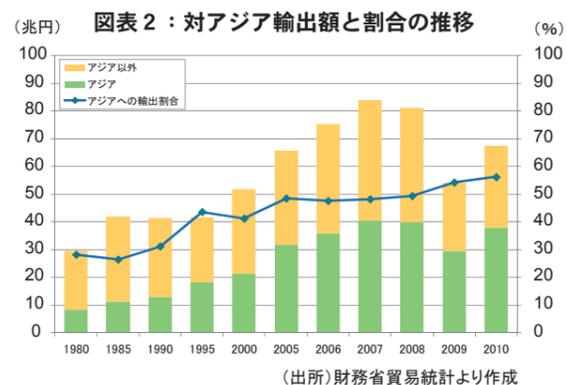
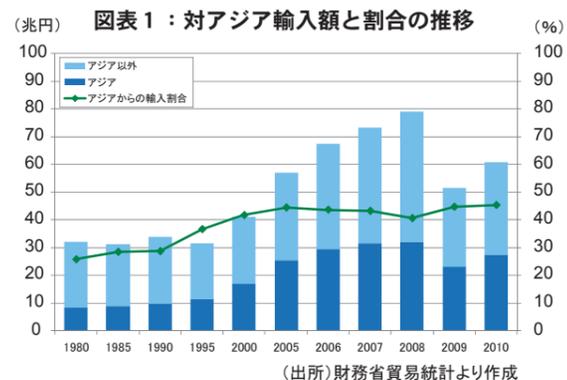
1980年当時の日本の貿易総額（輸入総額+輸出総額）は61.4兆円であった。その内訳は、輸入総額が32兆円、輸出総額が29.4兆円となっており、若干ではあるが、輸入が輸出を上回っていた。また、対アジアの貿易総額は、全体の30%に満たない16.5兆円であった。

それから20年後の2000年には、貿易総額は92.6兆円（輸入総額40.9兆円、輸出総額51.7兆円）となり、20年間で貿易総額は1.5倍になった。貿易収支では10.7兆円の輸出超過となっていて、1981年以降現在に至るまで、一貫して輸出超過となっている。その中で、対アジアの貿易総額は38.3兆円と2.3倍に伸びていて、全体の41.4%に達した。

2010年には、貿易総額全体で128.2兆円（輸入総額60.8兆円、輸出総額67.4兆円）に対し、対アジア貿易総額は65.3兆円となり、日本の貿易総額の半分以上を占めるほどの貿易相手地域に成長している。中でも対アジアへの輸出額は、全体の56%に達しており、日本の貿易収支（輸出総額-輸入総額）が6.6兆円の輸出超過であるのに対し、対アジア貿易による収支は10兆円を超える輸出超過となっている。

リーマン・ショック以降、アジア以外の貿易総額が落ち込んだ状態にある一方で、対アジアの貿易総額は、リーマン・ショック以前の状態に急速に戻りつつある。

これらのことから分かるように、日本経済にとってアジアは、無くてはならない貿易相手地域である。今後も日本は、経済成長著しいアジア地域との相互依存関係を深めていくことは、疑いようのない事実である。



●国内他地域のアジア展開先進事例

国内での先進事例としては、北海道や長崎県の取組が挙げられる。

北海道では、牛乳、長いも、水産物などを韓国や香港、台湾などに輸出している。2010年度のそれぞれの品目輸出量は、牛乳2,005トン、長いも4.3億円、水産物313億円となっていて、2003年度の輸出量に比較しても、ここ数年で大幅な伸びをみせている（図表4）。

LL牛乳は、超高温殺菌で60日間の常温保存が可能な牛乳である。輸出にあたって、価格の安いオーストラリア産に対抗するため、売場での試飲等により消費者ニーズを調査。結果、約350円/リットルと値段は国内販売価格の2倍と割高ではあるが、富裕層を中心に需要は伸びている。

長いもは、HACCP（ハサップ）認証（※）の取得や、高品質維持のためにノンブラシ洗浄装置・冷蔵施設などを導入、また、輸出専用段ボールには産地表示を明記するなど、ブランド化による差別化を行っている。台湾では、薬膳用などに高品質な北海道（十勝）産の長いもが好まれている。また、国内では規格外として値段の安い「太物」が、台湾では好まれ、輸出したことによって発見できた付加価値も存在する。

水産物（サケ・ホタテ・なまこなど）は、言わずと知れた北海道の輸出の主力である。道外経由の輸出を含めると、水産物の輸出だけで、約600億円に達する。その中でも、天然ホタテは世界中から人気があり、道産なまこは、中国では最高級品として現在は10年前の8倍程度（4千円/kg）の価格で取引されている。

図表4：北海道のアジア進出事例

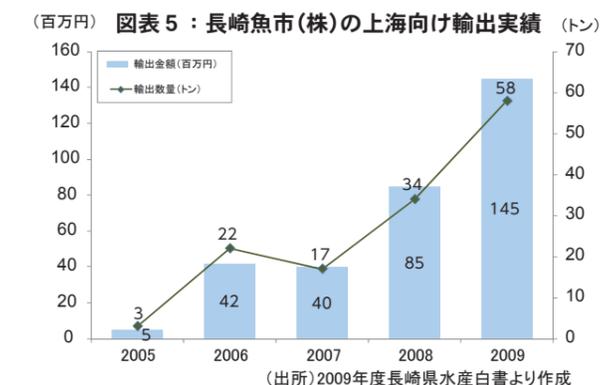
品目	輸出先(国)	輸出の伸び	
		2003年度	2010年度
LL牛乳	香港	115トン	2,005トン
長いも	台湾	2.9億円	4.3億円
水産物	サケ・なまこ	142億円	313億円
	ホタテ		
	すけとうだら		

（出所）北海道財務局「最近の北海道の経済動向等について」より作成

長崎県では、2005年11月から、上海向けに鮮魚の空輸を開始している。また、2008年2月には、上海東方水産中心に「長崎鮮魚市場」を開業。日本から空輸

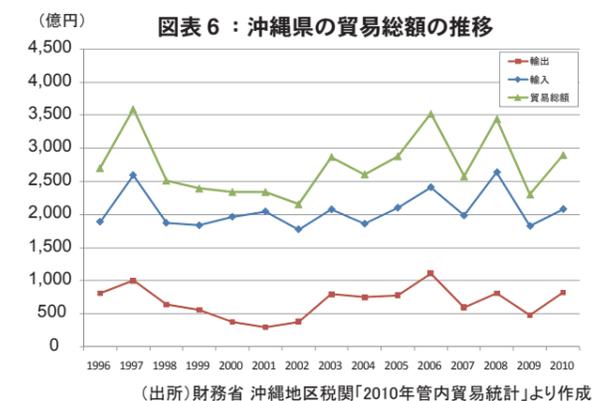
される新鮮な水産品を取扱う常設卸売り店舗として最初の店になる。空輸される鮮魚はクロマグロ、金目鯛、真鯛など長崎の高級特産魚で、週3回、一回に400キロ以上を空輸している。朝一番に漁船から買い付けた鮮魚は、昼の航空便で上海に空輸され、夕方には上海市内の十数か所の高級日本料理店や、長崎鮮魚市場の直営専売店と直送料理店に届けられる。

常設卸売り店舗を開業した2008年から、長崎魚市（株）の上海向け鮮魚の輸出金額は、飛躍的に伸びていて、2009年には輸出金額で1億4,500万円、輸出数量で58トンとなっている（図表5）。



●沖縄貿易の現状

沖縄県の2010年の貿易総額は2,901億円（輸入総額2,080億円、輸出総額821億円）で、1,259億円の輸入超過となっている。1996年から2010年までの貿易総額の推移をみると、ほぼ2,000億円から3,500億円の間で推移している。また、ここ数年は、1年ごとに1,000億円規模の増減を繰り返しており、不安定な貿易状況であることが分かる。



2010年に沖縄から輸出された主要品目は石油製品と再輸出品が全体の約80%を占めている。主要輸相手国（地域）としては、輸出価額順に、台湾、中国、

フィリピンと続き、この3国(地域)で全体の約65%、輸出価額上位8アジア諸国(地域)で全体の約88%を占めている。また、輸入主要品目としては、原油及び粗油、石炭が全体の67%を占めており、主要輸出相手国(地域)としては、輸入価額順に、オーストラリア、アルジェリア、ブルネイと続いている。

図表7：輸出主要品目

(単位：百万円、%)

順位	2010年			
	品名	価額	前年比	構成比
	輸出総額	82,119	172.0	100.0
1	石油製品	35,686	108.0	43.5
2	再輸出品	29,752	973.8	36.2
3	電気機器	3,209	27.1倍	3.9
4	一般機械	2,899	80.9	3.5
5	魚介類及び同調製品	2,035	85.7	2.5
6	パルプ及びびくず	1,873	152.4	2.3
7	金属鉱及びびくず	1,857	154.3	2.3
8	輸送用機器	1,126	484.7	1.4
9	精油・香料及び化粧品類	783	132.1	1.0
10	鉄鋼	780	93.2	0.9

(出所)財務省 沖縄地区税関「2010年外国貿易年表」より作成

図表8：輸出主要相手国

(単位：百万円、%)

順位	2010年			
	国名(地域)	価額	前年比	構成比
1	台湾	26,960	630.8	32.8
2	中国	15,843	113.2	19.3
3	フィリピン	10,547	76.9	12.8
4	ブラジル	5,356	全増	6.5
5	香港	5,074	135.3	6.2
6	シンガポール	5,018	198.1	6.1
7	ベトナム	4,283	18.7倍	5.2
8	韓国	2,570	71.6	3.1
9	インドネシア	2,000	81.4倍	2.4
10	グアム(米)	1,310	77.4	1.6

(出所)財務省 沖縄地区税関「2010年外国貿易年表」より作成

図表9：輸入主要品目

(単位：百万円、%)

順位	2010年			
	品名	価額	前年比	構成比
	輸入総額	207,981	114.1	100.0
1	原油及び粗油	121,304	141.3	58.3
2	石炭	18,024	75.7	8.7
3	石油製品	7,477	197.9	3.6
4	肉類及び同調製品	5,455	104.1	2.6
5	一般機械	4,325	102.0	2.1
6	穀物及び同調製品	3,939	145.7	1.9
7	その他の雑製品	3,829	152.1	1.8
8	電気機器	3,690	112.0	1.8
9	輸送用機器	3,312	25.5	1.6
10	果実及び野菜	3,151	104.3	1.5

(出所)財務省 沖縄地区税関「2010年外国貿易年表」より作成

図表10：輸入主要相手国

(単位：百万円、%)

順位	2010年			
	国名(地域)	価額	前年比	構成比
1	オーストラリア	31,195	70.1	15.0
2	アルジェリア	28,290	600.8	13.6
3	ブルネイ	26,169	24.9倍	12.6
4	中国	20,046	104.6	9.6
5	インドネシア	16,487	72.8	7.9
6	アメリカ合衆国	14,077	94.0	6.8
7	韓国	10,189	163.9	4.9
8	マレーシア	10,171	552.7	4.9
9	ブラジル	8,637	69.9	4.2
10	ナイジェリア	6,900	全増	3.3

(出所)財務省 沖縄地区税関「2010年外国貿易年表」より作成

●沖縄が抱えるアジア展開の課題

2008年5月にジェトロ沖縄貿易情報センターが行った、「沖縄県内企業の海外ビジネス意向調査」(対象企業：1379社、回答企業数：211社)によると、回答企業中、輸出に関心のある企業は98社あり、そのうち実際に輸出を行っている企業は半数だった。

輸出に関心のある企業で実際に輸出を行っている

企業と、まだ輸出は行っていない企業に対して、輸出にあたって企業が抱える問題点を調査した結果、どちらの企業でも、「海外市場のニーズ把握」が最も多く、「物流コストが高い」、「信頼できる取引先の確保が困難」、「対象市場の輸入等規制の情報不足」など共通する問題点を抱えていることが伺える。

図表11：輸出にあたって企業が抱える問題点

順位	輸出を行っている企業(49社)が挙げる問題点	輸出は行っていないが関心のある企業(49社)が挙げる問題点
1	海外市場のニーズ把握	海外市場のニーズ把握
2	物流コストが高い	信頼できる取引先の確保が困難
3	信頼できる取引先の確保が困難	貿易手続きが煩雑・難解
4	対象市場の輸入等規制の情報不足	対象市場の輸入等規制の情報不足
5	商品の価格競争力の強化	物流コストが高い
6	関税等、諸税が高い	商品の価格競争力の強化
7	貿易手続きが煩雑・難解	貿易人材の不足
8	取引先とのコミュニケーションがうまくいかない	取引先とのコミュニケーションがうまくいかない
9	模倣品・海賊版問題	商品の品質・デザインの改良
10	商品の品質・デザインの改良	模倣品・海賊版問題
11	貿易人材の不足	関税等、諸税が高い

(出所)ジェトロ沖縄貿易情報センター「沖縄県内企業の海外ビジネス意向調査」より作成

●県内企業のアジア進出事例

最近では、県内企業のアジア進出事例も多くなってきており、図表12にはアジア展開の代表的な事例をあげた。

タイガー産業株式会社は、テレビのCMでもお馴染みの断熱塗料「タイガーコート」などを販売している企業である。タイガー産業は1994年3月に中国の山東省付近に南寧泰格金属製品有限公司を設立、2002年8月には香港に盛龍国際貿易有限公司を設立しており、中国で大規模な事業展開を行っている。2010年度の売上高は、58億2000万円となっている。飲食品関係では、沖縄ハム総合食品やオリオンビール、ぬちまーすなどが韓国や香港、台湾へ展開しており、健康食品関係では沖縄長生薬草が、上海、台湾などに進出している。

沖縄ハム総合食品は、ANAの国際航空貨物事業を活用して、2008年4月から香港へ進出している。現地では、40店舗あまりの日系スーパーなどに約30品目

の商品を展開している。また、オリオンビールは、アジアで沖縄居酒屋などの飲食店事業を展開する「えんグループ(又吉真由美代表)」の関連会社、沖縄セントラル貿易(那覇市、同社長)を通じて、同グループが展開する香港のえんグループ各店で取り扱うほか、現地の食品卸企業や飲食店向けの営業も進めている。最近では、ぬちまーすが台湾の大手飲料・サプリメントメーカーに月500キロの塩を、スポーツ飲料の原料として輸出している。同社は、既に韓国の百貨店にて、塩を商品として販売中であり、台湾でも富裕層を対象に家庭向けの商品出荷を目指している。

図表12：県内企業のアジア進出事例

企業名	展開国(先)	主な貿易商品
タイガー産業	中国 香港	工具、内装資材、塗料等
沖縄ハム総合食品	香港	「OH!ボーク140グラム」 「あらびきモーニングウィンナー」
オリオンビール	台湾 香港	樽(たる)生ビール 缶ビール
沖縄長生薬草	上海 台湾	「琉球酒豪伝説」 「春ウコン粒」
ぬちまーす	韓国 台湾	塩
丸市ミート	香港	「吉利(かりー)豚」
沖縄関ヶ原石材	中国	石材
JAおきなわ	中国	ゴーヤー等

2008年のジェトロ沖縄貿易センターの調査で挙げられた輸出にあたって企業が抱える問題点は、沖縄県産業振興公社で実施している海外展開支援事業や、沖縄県が実施している沖縄国際航空物流ハブ事業など、様々な形の取組となって、県内企業の海外(アジア)進出をバックアップしている。沖縄県では、今年も香港、台湾、上海、シンガポールと、アジアの各拠点で沖縄フェアや商談会を実施する。

ただ、これらの取組はあくまでバックアップであり、バックアップする主体となる県内企業がいなければ意味をなさない。北海道のLL牛乳のように、現地で生の声を聞くことで、正確な消費者ニーズをつかみ、消費者に求められる商品を作ることができるだろう。アジアの市場は、急激に拡大している。県内企業の方々には、この機会を逃さないようにチャレンジをして欲しいし、行政サイドには、チャレンジする企業のリスク(コストも含めて)を軽減しながら、アジア市場への展開をサポートしていただきたい。その企業意識の転換が、自立型経済構築の一步になるのかもしれない。

(海邦総研経営企画部研究員/上江洲龍)